

富士市立高等学校学校運営協議会準備委員会

第1回 議事概要

- 開催年月日 平成23年4月26日(火)
- 開催時間 午後6時30分から午後8時30分
- 開催場所 富士市立高等学校会議室
- 出席者 [学校運営協議会準備委員会委員]
安藤 肇 奥園好文 加納孝則 高田 稔 内藤栄一
畑 隆 増田正之 山崎保寿 渡邊利夫 渡辺泰明

[教育長]
平岡彦三

[教育次長]
鈴木清二

[教育総務課・市立高校]
池田和明課長 他教育政策担当
齋藤照安校長 小林政樹事務長 他教職員

- 会議の概要

- 1 開会
- 2 委嘱状及び辞令書交付
- 3 委員自己紹介及び事務局紹介
- 4 教育長あいさつ

ただいま、10名の皆さまに富士市立高等学校学校運営協議会準備委員会委員の委嘱状及び辞令書を交付させていただきました。1年間の大変な仕事ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。

この会に先立ちまして、私の方から少し話をさせていただきたいと思います。国から平成14年8月に出された「人間力戦略ビジョン」では、教育改革の方向性と教育委員会に求められていることがしっかりまとめられています。そして、この中で地域住民に最も身近である市町村が主

体性を持ち、地域の実情に応じた施策を展開していくことが重要だと述べられています。これを読み取ると、教育委員会の企画力が問われているのだと理解しました。今、いろいろな教育改革が進められていますが、投げられた球をただ受け取っているだけでは、多忙感と負担感を感じるだけです。それを受け止めて、しっかりと投げ返したときに自主や自律、そして、創造性が生まれてくるのだと思います。教育委員会では、この「人間力戦略ビジョン」を受けて、言われてからやるよりも自ら先手を打って教育の姿を描くことが大切であると考えました。教育総務課の中に企画担当を設置したのもちょうどこの時期です。

そして、平成17年度、富士市で唯一の市立高校では、何を改善しますかと問われた時、私たちがしっかりと答えられるように、これについて協議をする場が必要だと考えました。また、そういう考えに至ったのには、県と市との関係があります。県立学校では、ちょうどその頃、静岡県立高等学校第二次長期計画が出されました。その中で、「富士地区では、適切な学科改善について検討する。」とされていますが、市立高校をどうするのかについては、何も書かれていませんでした。つまり、この計画から市立高校は距離を置かれていました。そのときに、やはり、富士市のことは富士市で考えていかなければならないと実感したわけです。そんなこともあって、この年、「富士市立高等学校あり方懇話会」を立ち上げました。そして、2年後の平成19年3月に「魅力ある市立高校をめざしてー富士市立コミュニティー・ハイ・スクール構想ー」という報告書をいただき、平成20年3月には、「魅力ある市立高校をめざして『夢実現高校（ドリカム・ハイスクール）』『コミュニティー・ハイスクール』』という報告書をいただきました。そして、平成20年7月には「富士市立高等学校改革基本構想」、平成21年6月には「富士市立高等学校改革基本計画」、平成22年6月には「富士市立高等学校改革実施計画」を作り上げました。開設準備委員を中心に、学校の具体的な検討がその後も続き、しっかりとした個別計画が作られました。後ほど詳細については、説明があろうかと思いますが、新高校は、魅力ある夢実現高校であり、少し背伸びをして、絶えず良さに向かって前へ歩み続ける学校です。私達のこんな願いを背負って、この4月によりやく新高校が開校しました。

さて、ここで資料の新聞記事を御覧いただきたいと思います。これは、長い間、市立高校の取材をされた記者の方がお書きになったものです。

(記事の紹介)

～市立高校改革に向けては、あり方懇話会、改革基本構想策定委員会、基本計画をまとめた現行の開設準備委員会と舞台を変えながら、長時

間をかけて地道な議論が進められてきた。過去の取材では、立場を超えて一つの方向性を見出すことの難しさを痛感する局面もあり、多様な意見を丁寧に反映・集約した計画の仕上がりに正直、驚いた。冒頭には「市民から愛され、個性的で魅力ある学校であり続けるために、既存の高校に見られない固有の存在を目指す『高校教育界のチャレンジャー』となり、10年後には『高校教育界のリーダー』となる」との宣言も。「何もそこまで…」と一瞬思ったが、歩みを振り返りながら細部に目を通し、「もしかしたら」という期待もこみ上げた。伝統を受け継ぎつつ、新たな一步を踏み出すには、相応の決意とエネルギーが必要であり、実施計画策定、施設・環境整備など多くの課題を踏まえれば、現状はスタートラインといったところ。改革全体を評価すべき時期はずっと先だが、未来を見据えた努力の積み重ねは、きっと重要な意味を持つだろう。現場を軸とする今後の改革の進展に注目するとともに、「市民みんなの市立高校」創造への市民の関心の広がり期待する。～

このようなことが書かれており、5年間をかけながら歩んできたことを良く理解してくれている記事だと思いました。

もう一枚の資料は、学校運営協議会設置についての記事です。私達も魅力的な学校であり続けること、そして、数年間で学校を整えなければならないことを考えると私達にとって頼りがいのある組織が必要であり、それが学校運営協議会であると考えています。(記事の紹介)

～教育委員会は、昨年6月に策定した「改革基本計画」に示された基本理念や組織の基本的あり方を具体化した「富士市立高等学校改革実施計画」をまとめた。学校運営では、公立高校としては珍しい学校運営協議会の設置を盛り込んだ。県教育委員会から配置されている校長についても、市での採用を検討している。～

このようなことが書かれています。私たちには、これからのあり方を考えていく上で、どうしても頼りになる羅針盤的な役割を持った組織が必要です。もう少し記事を御覧下さい。(記事の紹介)

～学校運営計画では、教育活動を客観的に評価し、外部からの要望や意見を取りまとめる機関として、学校運営協議会を設置する。私立学校の理事会に相当する機関であり、学校運営方針の承認を行うほか、学校運営や教育方針、教職員人事の提言を行う。～

このようなことが書かれています。私たちもこれからしっかりと歩み出す学校のために、皆さまからの知見をお借りし、知恵を汲み取ってまいります。皆さまには、委員として存分に活躍していただけたらと思い

ます。どうぞよろしくお願ひ致します。

5 設置要領の説明
(事務局より、設置要領を説明)

6 委員長・副委員長選出

(1) 委員長選出

委員長に畑隆委員を選出。

(2) 副委員長指名

副委員長に山崎保寿委員を指名。

(3) 委員長あいさつ

ただいま、委員長に選出されました畑でございます。私は、吉原商業高校の評議員をしておりましたので、その経験から委員長にということだと思ひます。また、富士市では、工業振興会議の座長も務めており、本市との関わりも10年以上になります。そうした経験があるとはいえ、このような大役を引き受けることは、本当に緊張し、身の引き締まる思ひです。

評議員の時に新高校の教育理念についてお聞きし、その先進性に強い印象を受けました。また、先ほどの教育長様のお話から、新高校に対する市民の期待も熱く注がれていることを感じました。新高校が素晴らしい高校になれるよう、私も力を尽くしてまいりますので、皆さま、御協力のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(4) 副委員長あいさつ

副委員長を拝命した山崎です。副委員長の役割は、委員長を補佐するということですので、畑委員長の補佐に努めたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

7 議事

(1) 新高校の教育理念等について(市立高校教職員)

まず、改革基本計画から説明させていただきます。市立高校の開校に向けては、平成17年から数々の検討会を経て、「富士市立高等学校改革基本構想」が策定され、その後、平成20年に設置された富士市立高等学校開設準備委員会の下で、「富士市立高等学校改革基本計画」

が策定されました。これには、新高校の基本理念が明示されています。

基本理念の1つ目は、市立高校であることを自覚し、富士市の発展に寄与すること。2つ目は、高校教育界のリーダーを目指し、新たな発想の教育活動を展開するということです。具体的には、(1) 地域との連携を深め、協働して学校づくりを行う「コミュニティ・ハイスクール」を目指す。(2) 生徒が夢を見出し、生涯に渡り学び続ける力を育む「ドリカム・ハイスクール」を目指す。(3) 物事の本質を追究し、自分自身と向き合い、向上する「探究ハイスクール」を目指す。ニュースレター等でも、基本理念をその頭文字をとって、「CDI」と表示しています。基本理念の3つ目は「自律する若者」の育成です。

こうした基本理念の下、新高校は、総合探究科、ビジネス探究科、スポーツ探究科の3つの専門学科を有する単位制の総合型専門高校という体制を整え、6クラス定員240名の規模で平成23年4月に開校する計画が立てられました。

この基本計画を具現化するために、平成21年6月に富士市立高等学校開設準備室を設置し、教育委員会の教育総務課と協議をしつつ、開校に向けての準備を進めてきました。そして、平成22年6月に「富士市立高等学校改革実施計画」が策定されました。

この実施計画ですが、基本計画において示された基本理念、教育の基本的在り方、組織の在り方を個別計画として整理したものです。この計画は、平成32年までの10年間を推進期間としており、効果的な教育の実践が可能になるように、改善や新規の取り組みを図ることになっています。それでは、具体的な計画について説明します。

この計画は、14の個別計画に分かれています。まず、個別計画の1は、学校運営計画です。これは、理念の継続と特色ある教育活動を推進するために、組織の充実を図る計画です。具体的な取組としては、校内組織の整備、学校経営会議の設置、学校運営協議会の設置、そして、学術顧問の招聘を掲げています。

個別計画の2は、教職員人事計画です。こちらは、特色ある教育活動の推進を支える教職員の資質向上を図る計画です。具体的な取組としては、教職員研修の実施、校長や教職員の採用です。校長採用については、昨年、市独自で採用試験を実施し、この4月から齋藤校長をお迎えしております。

個別計画の3は、施設・設備整備計画です。学校の教育環境の整備を図る計画です。具体的な取組としては、教室棟及び特別教室棟の整備、各種体育施設の整備、生活館の整備です。

個別計画の4は、地域連携計画です。コミュニティ・ハイスクールの実現に向けて、地域と連携した活動を取り入れる計画です。具体的な取組としては、この素晴らしい学校施設をいかに開放するかということで、学校施設の開放、そして、外部機関への協力、即ち市立高校の生徒が外部へ出て、どう関わり合いを持つかということをも具体的に考えていきます。

個別計画の5は、キャリア教育計画です。生徒の夢実現に向けて、様々な出会いや体験を通して、キャリアプランニング能力を育成する計画です。具体的な取組としては、キャリア教育に関する指導計画を常に研究するという事、そして、キャリア教育は、なかなか学校だけでは出来ませんので、外部とのつながりをどうしていくかということで、外部コーディネーターとの連携を密に図ってまいります。

個別計画の6は、探究学習計画です。先進的な探究学習を行い、社会で求められている様々な能力を育成する計画です。具体的な取組としては、探究学習の体系的なカリキュラムの開発や指導方法の研究です。

個別計画7・8・9については、3つの学科の具体的な教育計画ですが、まとめて説明します。これらの計画は、3学科の特色を明確にした教育活動を実践することが前提です。具体的な取組としては、学習支援体制の整備、継続的な授業改善、学科独自の行事として、修学旅行や夏季の集中講座があります。

個別計画の10は、入学者選抜計画です。入学者選抜の方針を定め、積極的な生徒募集を行うという計画です。選抜方針を決定したり、定期的に中学校や地域に対して広報活動を実施するというのが、具体的な取組です。

個別計画の11は、教科指導計画です。基礎知識の習得に向けた指導体制を確立し、学習環境の整備をする計画です。具体的な取組としては、シラバスの作成、学習の定着に向けた指導体制の整備、サテライト学習・学習サポートです。

個別計画の12は、生徒指導計画です。生徒の自己管理能力を育成するため、生徒の主体的な活動を支援する指導体制を確立する計画です。具体的な取組としては、生徒指導ガイダンスの実施、生徒会活動における方針の作成です。

個別計画の13は、進路指導計画です。生徒の主体的な進路選択を支援する指導体制を整備する計画です。具体的な取組としては、進路指導ガイダンスの実施、進路動向の研究です。

個別計画の14は、部活動推進計画です。部活動の推進体制と施設の整備を行う計画です。具体的な取組としては、部活動シラバスの作成、外部講師の招聘、部活動に関する情報の提供、部活動における地域貢献活動です。以上で説明を終わります。

(2) 平成23年度学校経営計画について（校長）

私からは、学校の具体的な取組である学校経営計画について説明させていただきます。

目指す学校像は、「ドリカム・ハイスクール」「コミュニティ・ハイスクール」「探究・ハイスクール」です。この実現に向けて、現在、先生方と取り組んでいます。生徒につきましては、学力の向上、探究する力、コミュニケーション能力、社会に貢献する意欲を高め、バランスのとれた「自律する若者」を育成したいと思います。この実現に向けまして、下記に示した学校づくりをします。

6点ほどございます。まず、魅力ある授業づくり。それから、探究の精神に満ちた学校。3点目は、人としての大事な部分である基本的な生活習慣、規範意識を身に付けさせ、思いやりのある「豊かな人間性」を育成する学校。人と接する時間というのは、お互いに命を提供していることだと思いますので、そういう感覚で思いやりを持って人と接することが大事です。4点目は、キャリア教育。将来の自分の生き方をマネジメントする力を付けさせる学校。5点目は、部活動や学校行事にも力を入れていきたい。こうした活動を通して、自主性、協調性、たくましい心身を育成したい。6点目。やはり、学校だけでは出来ないことが多々ありますので、家庭やPTAの協力、そして、地域の方々との連携が必要です。最後に、生徒が「この学校に来てよかったね。良い学校だね。」と言われるように、信頼される学校、愛される学校を目指したいと思います。

中期的目標ですが、大きくは「自律する若者」の育成を目指します。具体的な方法としては、6つ挙げられていますが、次の今年度の重点目標と重複するところがありますので、そこで詳しく説明させていただきます。

それでは、今年度の重点目標を説明します。(1) まず、分かる授業を目指したいと思います。特に数学。といいますのも、探究学習を行う上で数学の力は大事になってくるからです。そのために、授業力の向上を目指し、研修週間や公開授業などに取り組めます。今年は、研究指定校にもなっています。(2) 生徒の心の安定と規範意識が、教員

が授業を進めたり、生徒が学校生活を送る上で大切です。そして、学校全体で「生徒一人ひとりを大切に」を合言葉にしたいと考えています。(3) 3年間を通した体系的なキャリア教育です。例えば、各学科の特色を活かした夏の集中講座です。スポーツ探究科では、野外活動。ビジネス探究科では、企業研究。総合探究科では、研究施設訪問。また、インターンシップも合わせて行います。(4) 生徒の自主性や協調性、そして、目標に向かって挑戦する意識を学校生活の中で培っていきます。これは、授業、部活動、特別活動など、あらゆる機会を捉えて取り組んでまいります。(5) 教育活動を進めていくには、生徒の安全面を考えなければなりません。(6) 家庭、PTA、地域との連携を図って、相互の信頼関係を構築します。(7) 教育理念については、まだ、見えない部分がありましたが、実際に教育活動を進めながら、学校全体で教育理念の共有化を図って、実施計画を具体的な形にしていきたいと思ひます。

最後になりますが、今年度、特に大事だと考えていることは、教育活動に取り組む教職員が、人間関係の構築と言ひますか、1年生と2・3年生のバランスを考えた教育を進めていくことです。

そして、心がけていきたいことが2点あります。1点目は、「生徒一人ひとりを大切に」を合言葉に、生徒の側に立って、生徒からやる気と勇気をもらいたひと思ひます。そして、明るい職場を作り、教員同士が協働の心を持って教育活動に取り組みたい。2点目は、出会いを大切にし、**Welcome**の精神を大事にしていきたいと思ひます。

(3) 意見交換

[委員長]

御説明ありがとうございました。ここからは、委員の皆さまから意見や質問をいただきたいと思ひます。新高校の教育理念を念頭に置きながら、平成23年度の学校経営計画について、様々な角度から多くの意見を出していただければと思ひます。いかがでしょうか。

[A委員]

市立高校が夢実現高校になるということは、非常に意義があることだと思ひます。つまり、市立の高校ですから、これを管理する教育委員会では、小中学校の管理もしている。従って、高校と中学校間での教員の人事交流が比較的やりやすいと思ひますが、その辺はどのようなになっていますか。

[市立高校教職員]

具体的には、現在3名の方が、中高交流で本校に来ています。平成21年度から毎年、英語、国語、数学の順で来ており、学校の活性化に役立っていただいています。今後も継続して実施していけたらと考えています。

[B委員]

昨年、学校訪問で授業を見させていただきましたが、その際、高校の場合、授業はほとんど個人研修に任されているとお聞きしました。先ほど、今年度の重点目標に魅力ある授業があがっていましたが、魅力ある授業を行うには、かなり組織立った研修体制が必要になってくると思うのですが。

[市立高校教職員]

今年度、本校は市の研究指定校となっており、学校改革という良い機会を捉えて、授業の向上に努めてまいります。具体的には、ある大手予備校に高校教員の研究授業支援を行う部署があるのですが、そこを利用します。そのための予算も付けていただきました。実際に授業の支援をしてくださる先生方は、長い間予備校において、保護者、生徒、予備校教員などたくさんの目によって鍛えられてきた方達ですので、充実した研修ができると考えています。

また、校内の内規には、研修は年間テーマを決め、そのテーマに沿った計画を立てることが規定されています。今年度、その研修の中に授業改善が組み込まれています。大手予備校の授業支援につきましては、詳細な内容について、これから詰めてまいります。

[B委員]

以前、学校教育課で小中学校の学校訪問をさせていただいた時に、授業終了後の話し合いの場に生徒を呼んでいる事例がありました。やはり、魅力ある授業というのは、生徒から離れたところでは成り立ちません。高校でこそ、生徒自身が「自分達はどうであったか」を振り返る話ができるのではないかと思います。是非、授業が終わった後に、生徒と語り合う場を設けていただければと思います。

[委員長]

今の話と関連しますが、今年度、授業に関して生徒から意見を聴取

する機会を設けると思うのですが、年間何回位を予定されていますか。

[市立高校教職員]

生徒からのアンケートとその分析も先ほどの大手予備校にお願いする予定です。それが、年間2回あります。これ以外にも、先生方が個々で行うものもあろうかと思えます。

[委員長]

大学でも学期の終わりごとに授業アンケートを実施しています。授業アンケートは、その詳細を全教員に配布するかは別として、授業を担当している先生にとっては、自分の授業を生徒がどう受けとめているかを知ること、その人自身の改善につながります。こういうアンケートは、是非、たびたびやっていただきたいと思えます。

[C委員]

高校へ生徒を送り出す中学校の立場としてお聞きします。これまで商業をベースに教育を展開してきた市立高校が、スポーツ、総合、ビジネスと3つの専門学科を持つ学校になりました。私共の中学校では、今年、多くの生徒が他の普通科高校を選ばずに市立高校を選びました。それは、市立高校へ行けば、自分の夢を実現することが出来るのではという期待を持ったからです。そこで、生徒達のこうした思いを汲み取って、実際にその夢を実現させるために、どのような具体的支援体制をとっていくのか教えていただきたいと思えます。

また、コミュニケーション能力の育成ということもたびたび伺っておりますが、その育成体制も合わせてお伺いしたいと思えます。

[D委員]

私は、今のお話を聞いて、学校が生徒の期待に応えていく努力をするのはもちろんですが、その一方で、先生方の負担がかなり高くなるのではないかと思います。そうすると、先生方のストレスも溜まってしまって、良い指導が出来なくなります。こうした部分のケアが大切だと思うのですが、その辺の支援体制はどうなっているのでしょうか。

[校長]

まだ、初めてのことばかりで、先生方も模索しながらここまでやっ

てきたというのが現状です。そろそろ、先生方も疲れが溜まってきている頃かもしれません。C委員から御質問のあった夢実現の支援とコミュニケーション能力の育成ですが、それぞれを別々の授業で支援したり、育成していくものではありません。その中心となる授業は、総合的な学習の時間であり、ここでは探究学習を進めてまいります。探究学習は、あるテーマについてグループごとにそれぞれの課題を発見し、自分達でそれを解決し、最後に発表するという形をとります。その中でいろいろな体験や経験をしながら、両方の面を学んでいくことが出来るのではないかと思います。

それから、生徒に生き生きと学習させるためには、先生方が疲れきっているのではまずいと思います。その辺は、私たち管理職の課題です。ほとんど毎日遅い時間までというのでは、どこかで破綻してしまいます。先生方と十分コミュニケーションをとって、いろいろ工夫しながらやっていきたいと思います。

[市立高校教職員]

夢の実現を支援するためのキャリア教育や探究学習を始める準備として、4月初めの1週間、新入生研修を行いました。本校は、総合的な学習の時間に行う探究学習が教育の核です。そこで、この研修を通して、本校の特色をしっかりと捉えてもらおうというわけです。

13日の「ことばの授業」がコミュニケーション能力を育成する目的の研修でした。全国紙の新聞に時の人を紹介するコラムがあるのですが、その担当の方から文章の構成や自己紹介の書き方などを教えていただきました。その中で、積極的にインタビューをしたり、友達と関わったりするシーンが多々見られ、すでにこの時点で今年の新入生のコミュニケーション能力の高さを感じることができました。

15日には、自分の夢について語るブレインストーミングを行いました。この日もグループの中で活発な意見交換がなされ、その中でリーダーシップをとったり、支援にまわったりと各自が状況に応じた役割を果たしていました。こうした活動が総合的な学習の時間に年間を通して行われます。そして、半期ごとに課題も変わって、どんどんレベルアップしていくようにプログラムされています。

次に、キャリア教育支援体制ですが、今回、まずは夢に向かって一歩踏み出す勇気を持って欲しいという目的で、ある方に講演をお願いしました。この方の講演は、特別な人が特別なことをしているのではなくて、身近な存在である人が夢を持つことの大切さを語っている事

例として、多くの生徒が感銘を受けていました。今回を皮切りに、今後も社会で広く活躍している方の体験談を語ってもらう機会を年に数回企画したいと考えています。さらに、キャリアカウンセラーにも協力をしてもらい、生徒が個々に抱える課題についても解決できるようにしていきたいと思います。

教育委員会として、こうした研修等に対して、きちんと予算を付けていただきました。今後、こうした教育活動を続けていくためには、予算面においても継続的な支援をお願いしたいと思います。生徒に課題解決的な力やコミュニケーション能力といった力を付けるために、学校は、教育活動での直接的な支援を行い、教育委員会は、コスト面での間接的な支援を行う必要があると思います。

[委員長]

今、既に取り組み始めた新しい教育活動を紹介していただきました。その中で、先ほど御質問があったコミュニケーション能力の育成について、支援体制の具体的な姿がわかったのではないかと思います。さらに、いかがでしょうか。

[E委員]

先ほど、校長の話にも出てきましたが、1年生と2・3年生のバランスについて質問します。新しい学校のコンセプトが固まってくる中で、2・3年生は、1年生とは違い、これまでのカリキュラムで学びます。そうした時の2・3年生へのケアですとか1年生とのバランスといった、政策的なことについてお聞きしたいと思います。

[校長]

大変難しい質問です。今、ちょうど悩んでいるところですので、逆に御意見をいただければと思います。特別な施策というものは、ありませんが、2・3年生にも3年間の定められた教育計画があります。それを大事にしていく確認を先生方とも取っていきたいと思います。ただ、1年生の良い部分は取り入れていきたいと思います。1年生も2・3年生も同じ市立高校の生徒ですから、同じサービスを提供したいと思います。ただ、制服等違う部分もありますから、そこは十分配慮してまいります。部活動では、1年生が頑張っているので、2・3年生も頑張らねばという相乗効果も出てきています。先生方には、授業や部活動などいろいろな場面において、大変気を使っていたいて

います。

[教育長]

新高校の開校は、平成23年度であり、計画を考える上で授業などの体制を本格的に変えるのは、この4月からですが、本気になって高校を変えたいというその本気度を伝えるために、これまで教育委員会では、部活動の強化を主に支援してきました。部活動が良い方向に動いていけば、学校が変わる、学校が良くなっていく予感が伝わるのではないかと考えたわけです。これは、一つの例ですが、陸上部では、昨年のジュニアオリンピック全国大会の400mリレーにおいて、大会新記録で優勝しました。この他にチアリーダー部やサッカー部など様々な部活動の活躍がありました。どの部でも私たちが良い学校にしていくのだという姿勢が2・3年生に感じられました。それが良い意味で、今、1年生に影響を与えているのではないかと思います。先ほど、齋藤校長の話にもありましたが、私たちは、絶対に2・3年生にやるせなさを感じさせてはならないと考えています。

[F委員]

市立高校の募集人員は、総合探究科が120名の3クラス、ビジネス探究科が80名の2クラス、スポーツ探究科が40名1クラスでしたが、今年度、ビジネス探究科を希望する生徒が少なく、1クラス分少ない人数でスタートしました。総合探究科やスポーツ探究科の希望人数が多い場合には、そちらのクラス数を増やすなど、学科間におけるクラス数の増減は出来ないものでしょうか。つまり、学校の募集と生徒の希望がずれた場合に、うまく対応出来ないものでしょうか。

[校長]

学科で募集したクラス数を生徒の希望が出てから変更するということは出来ません。ですので、事前にどの学科で何クラス募集するのかを検討する必要があるのですが、これは学校側でなく教育委員会が行うことです。私たち学校で出来ることは、それぞれの探究科の考え方を世間にと言いますか、中学生に対してしっかり説明していくことだと思います。そして、問題は、やはりビジネス探究科です。これからのビジネスは、基礎的な知識の上に、豊富な経験とさらに高い知識、そして、探究心がなければやっていけません。従って、進学したいと言う生徒が、いつでも進学することができるレベルの教育を行う必要

があります。

[委員長]

試験が終った段階で、クラス数の変更はできないと思いますが、今後、募集をどうやっていくのかは、教育委員会で検討すべき事項だと思います。

[G委員]

先ほど、齋藤校長の学校経営計画の説明で、例えば、今年度の重点目標に、『分かる授業』による基礎学力の定着に努め、授業力向上に取り組む。」とあったり、実施計画でもいろんな取り組みが羅列されていますが、中長期的にどの辺をゴールとするのかといった議論はあったのでしょうか。

[校長]

中長期的なゴールであるなら、基本計画を参考にさせていただけたらと思います。ここには、「10年後には『高校教育界のリーダー』となる」と書かれています。

[G委員]

私が質問した意図は、取り組んだということで、先生方の自己満足で終わってしまわないように、ある程度、目標とするレベルや目指す姿を設定する必要があるだろうということです。全部に設定するのは難しいかもしれませんが、生徒といっしょになって目指せるわかりやすい目標があった方が良いのではないのでしょうか。

[委員長]

今の御意見は、学校で検討して欲しいと思います。その他にいかがでしょうか。

[H委員]

新しい学校になっても、先生方の顔ぶれは、昨年とほぼ同じだと思います。そういう意味で、新しい学校がスタートするには、先生方の意識改革がとても大切だと思います。先生方の意識改革をどんな風に進めていくのでしょうか。やはり、先生方が変わらないと子どもは変わらないと思いますので。

[校長]

これは、私たちにとって大変大きなテーマです。1年目に取り組んでいきますのは、教員研修を通して一つの方向性を創ることです。ただ、これだけでは十分ではありませんので、その他の策については、今後の課題とさせていただきたいと思います

[I 委員]

これから入学してくる可能性のある中学生に対する広報活動はどうなっていますか。探究の授業を撮影したDVDを持って、各中学校を回ったり、授業を実際に見てもらったりして、市立高校はこんなことをやっているんだよというPRをする予定はありますか。まず、中学生に目を向けてもらい、その保護者に共感してもらう必要があります。そして、もう一つやってもらいたいことは、体験入学です。とにかく、まめに中学校とのキャッチボールをやることが大切です。そんな広報活動が、年間で予定されているのかを教えてくださいたいと思います。

[市立高校教職員]

私たちも広報活動の重要性は十分認識し、昨年度は、新しい学校を知っていただくために、中学校を訪問して校長先生や3年部の先生方に説明に回りました。中学校でも3年生に対して各高校の説明会を設けていますので、そちらに伺って、生徒及び保護者に説明させていただきました。また、1日体験入学については、昨年も実施しましたが、これは、本校だけでなく県内の全ての高校で実施することになっています。それから、学校説明会をこれとは別に2回実施しました。さらに、市内においてニュースレターを中学生全員に、学校案内を中学3年生全員に配布しました。

新しい高校のスタートにあたり、やはり、情報をしっかり伝えることが大事だと考え、こうした広報活動を行いました。ただ、まだまだ不十分なところもありました。今年度は、昨年以上に良い形でやっていきたいと思っています。例えば、学科についてより詳細な説明を行うため、学科長も説明に伺う予定です。また、実際に学校の様子を見に来ていただくのが一番の広報ですので、学校開放を行うことで、出来るだけ多くの人に足を運んでいただければと思います。

[D委員]

大手予備校のサテライン講座は、2・3年生は対象になっているのですか。

[市立高校教職員]

現在、3年生の希望者6名が受講しています。基本的に2・3年生の希望者が受講することは可能です。

[委員長]

いろいろと意見や質問を出していただきまして、ありがとうございました。質問に対する説明を通して、新高校の教育理念や学校経営計画についての理解も深まったのではないかと思います。そして、いくつかの意見は、学校経営計画を包括するものであったと思います。

それでは、ここで皆さまから学校経営計画について、御承認をいただきたいと思いますが、皆さまよろしいでしょうか。

(一同、うなづく)

それでは、御承認いただいたものとさせていただきます。

最後になりますが、本日、委員の皆さまからいただいた意見につきましては、事務局で精査していただき、可能であればこの計画の中に取り入れていただければと思います。

8 次回の開催日程

事務局より、これからの日程について説明する。

9 閉会